

木村病類似の組織所見を示した 異物性肉芽腫の1例

おお ふじ さとし しん どう まさ ひさ
大 藤 聡¹⁾ 進 藤 真 久²⁾
やま もと おさむ
山 元 修²⁾

キーワード：木村病類似，異物性肉芽腫

要 旨

76歳，男性。初診の約2年前より右前腕屈側に結節があることを自覚し，徐々に増大したので受診した。切除したところ，結節の内部に異物があり木村病類似の組織像であった。異物の元素分析をおこないタングステンと鉄を検出した。この異物を用いたパッチテストは陰性であった。以上より，木村病類似の組織所見を示す異物性肉芽腫と診断した。木村病類似の組織所見が見られたときは異物の存在を確認する必要があると考える。

はじめに

異物性肉芽腫は皮膚に入った異物が惹起する肉芽腫性反応である。様々な組織所見を示すが好酸球浸潤の強いリンパ濾胞構造が観察されることは少ない。われわれは右前腕に生じた木村病類似の組織所見を呈した異物肉芽腫の症例を経験したので報告する。

症 例

症例：76歳，男性

主訴：右前腕の結節

家族歴：特記事項はない

既往歴：糖尿病・前立腺肥大・心房細動

現病歴：初診のおよそ2年まえより右前腕に硬結を自覚していた。次第に大きくなり隆起してきたので受診した。切削機械を操作することはない。結節が生じた右前腕屈側に外傷の記憶はない。

初診時現症：右前腕屈側に直径1 cmの皮下結節が認められた。被覆皮膚との可動性は不良。下床の脂肪織との可動性は良好であった。皮膚の表面は灰色であった。結節に疼痛あるいは圧痛はなく皮膚温は周囲と同じであり拍動はなかった（図1）。

治療：局所麻酔下に結節を切除した。

病理組織学的所見：肉眼所見で摘出標本剖面中央に異物があった。病理組織検査のためのホルマリン固定パラフィン包埋ブロックレントゲン写真で標本の中央にレントゲン非透過性の物体が存在していることが確認された。異物は1×2 mmで石様

Satoshi OFUJI et al.

1) 島根県済生会江津総合病院皮膚科

2) 鳥取大学医学部感覚運動医学講座皮膚病態学分野

連絡先：〒695-8505 江津市江津町1016-37

の硬さを持つ黒色の金属片様物質であった (図2)。摘出標本の顕微鏡観察では真皮から皮下脂肪組織内に大小のリンパ濾胞が形成されていた (図3)。リンパ濾胞を取り囲むように血管増生が著明であった。増生した血管内皮細胞の腫大は目立たなかった。リンパ濾胞間の増生した血管周囲には好酸球浸潤が著明であった (図4)。リンパ濾胞間あるいはその周囲には硝子化した膠原線維が豊富に見られた。

異物をエネルギー分散型 X 線元素分析装置 (EMAX-5770W, HORIBA) を用いて解析し、タングステンと鉄にピークが見いだされた (図5)。



図1 右前腕屈側に直径1センチメートルの結節があった。表面皮膚色は灰色がかった。

パッチテスト：患者の背部に摘出された異物を直接72時間貼り付け観察した。発赤・浮腫・丘疹いづれも見いだされなかった。

診断：以上の所見により、タングステンと鉄を構成成分とした異物によって生じた木村病類似の組織所見を示す異物性肉芽腫と診断した。組織学的には類似するものの、その臨床症状から木村病とは鑑別された。

組織：切除16ヶ月経過した時点で再発はない。

か ん が え

異物肉芽腫は外傷・注射などで皮膚に入った異



図2 結節中央に存在した異物。

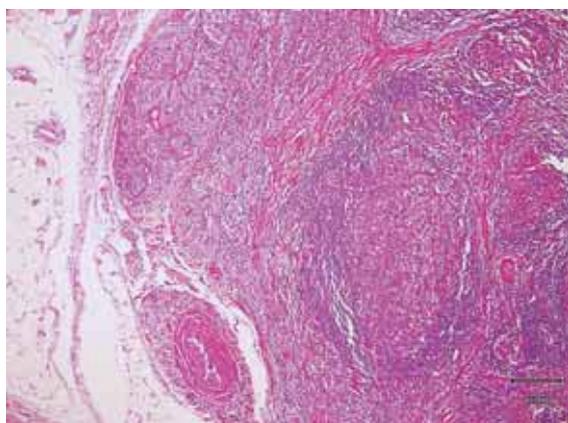


図3 病理組織学的所見：真皮から皮下脂肪組織内に大小のリンパ濾胞が形成されていた。

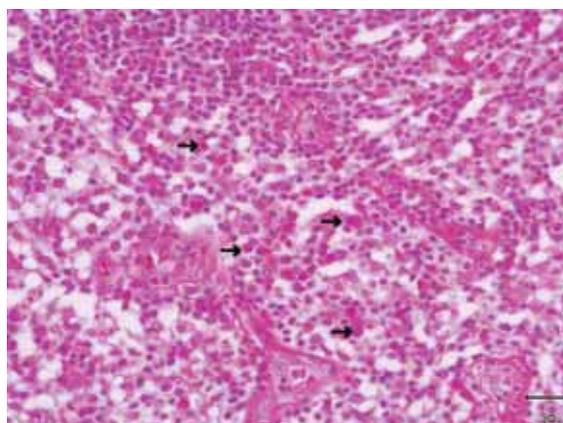


図4 リンパ濾胞を取り囲むように血管形成が著明であり増生血管周囲には好酸球 (矢印) 浸潤が著明であった。

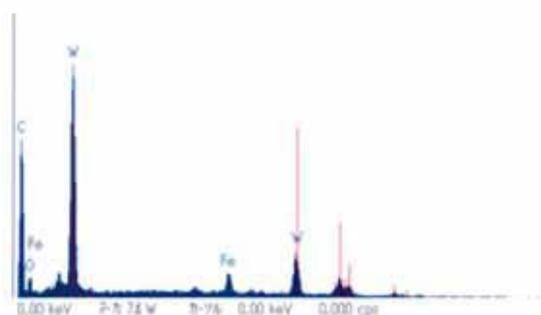


図5 走査電子顕微鏡的エネルギー分散型X線元素分析。W：タングステン，Fe：鉄，C：炭素，O：酸素

物を中心に反応性肉芽腫を形成するもので，異物を中心に組織球・異物巨細胞の浸潤を認めることが多い。われわれが経験した症例は異物巨細胞が目立たない一方で，リンパ濾胞の形成と好酸球の浸潤が目立ち，木村病類似の組織所見であった。異物肉芽腫は様々な組織所見を示すことが報告されている。しかしながら，木村病類似の組織所見の報告は医学中央雑誌を検索した範囲で見いだされなかった。異物に対する金属アレルギー反応が本症例の組織所見に関与している可能性を考え，異物そのものを用いてパッチテストを行ったが陰性所見であったので金属アレルギーと本症例の組織所見とは無関係であると思われた。鉛筆の芯が迷入した pencil-core granuloma の場合，鉛筆の芯の成分である黒鉛が組織に浸透したのちマクロファージが活性化して肉芽腫が形成されるため

長い潜伏期間を示すと推察された報告がある¹⁾。このようにある種の鉱物が原因の異物肉芽腫は長い潜伏期間を有し，アレルギー性接触皮膚炎とは異なる機序によって肉芽腫が形成される。切削機械の刃を想起させる本症例の異物は2年以上前から迷入し，徐々に結節を形成したものと推測されるがなぜ特異な組織所見を示したのかは報告例もなく不明である。

木村病は青壮年患者の顔，耳介周囲，頸部に発生するリンパ系皮膚腫瘍である。成因として真菌，または寄生虫に対するアレルギー説，自己免疫説，病巣感染説，アトピー性疾患との関連を示唆する説など様々であるが定まったものはない²⁾。臨床症状と異物の存在から，本症例は木村病に病理組織所見が類似するものの異物性肉芽腫と診断される。木村病との異同が問題となる疾患の angiolymphoid hyperplasia with eosinophilia (ALHE) は血管の増生と血管内皮細胞の腫大が特徴であり，リンパ濾胞構造は目立たない³⁾ので本症例の組織所見は ALHE ではなくて木村病類似であるとした。

木村病類似の組織所見を示す異物性肉芽腫が存在したので，木村病類似の組織所見が見られたときは異物の存在を確認する必要があると考える。

稿を終るに当たり，病理所見の指導をしてくださった吉田春彦先生に深謝いたします。

文 献

1) 外山知子 ほか：Pencil-Core Granuloma の1例. 皮膚科の臨床 50：1089-1091, 2008.

2) 我妻恭子 ほか：木村病 皮膚病診療 28：703-706, 2006.

3) 平井麻起子，本田えり子，十一英子：angiolymphoid hyperplasia with eosinophilia 皮膚科診療 28：695-698, 2006